

2017年末企画 報告特集 なぜ、若者は 労働運動に はまったのか

フリーターユニオン福岡

の通信誌

FUF VOL. 33

2017年末企画

報告GO

フリーターユニオン福岡は、2017年も年末企画を開催しやしたよ。

「なぜ、若者は労働運動にはまったのか」と題して、最近急成長の将来有望若手組合員武田さんと、超古参のベテラン若手組合員丸田さん（ウチの組合は若手しかおらんのですわ）に、その半生を早くも振り返ってもらいました。

んで、あろうことか、二人は別日に大学生相手にその内容で講演しちゃいましたよ。ええ。

組合の話なんて、今どきの大学生にゃ日馬富士ほどの興味も持ってくれんだろ、なんて考えてるあなた、意外にも（失礼）好評だったようですわ。

大学時代の悩みもぶっちゃけながらの彼らの話に共感するところ大だったようで、そこからすーっと話に入り込めたようです。若いっていいね。

そんなこんなで、今号は、講演を終えた彼らのアツイ想いを中心に特集を組みました。

もちろん、年末街頭行動や、争議解決の報告もあるよ！
どうぞお楽しみください！！

=目次=

だれの前にも道はない だれの後ろにも道は出来る	たけもりまき	…3頁
「支援」から「運動」へ ～希望を持ちそれを言葉に	丸田弘篤	…4頁
労働組合ってなに？ というあなたへ	武田啓詩	…6頁
山口大学での講義を聴いた感想	ノリスケ	…8頁
【年末街頭行動報告】無題	内野端樹	…9頁
働くこと学ぶことへの疑問を労働組合運動へ	見谷 元	…9頁
街頭行動ビラからカッコイイところ抜粋		…10頁
【争議解決報告】組合員みなのかで一件落着	田中 升	…11頁

「だれの前にも道はない だれの後ろにも道は出来る」

「いい大学」を出て「いい会社」に入
ることを人生のルールとする不自由な社
会になってしまったのは、いつからなの
か。「フリーターユニオン2017年未
企画」は、生きるとは、敷かれたルール
に乗らないものたちの抗いであることを、
30代40代前半の組合員が現在に至る道の
りをありのままに語ってくれた。労働組
合運動など見向きもされなくなったこの
社会においてさえ、組合員一人ひとりの
足跡が、労働組合活動という太い道程と
なっていくことの意味をも教えてくれた。
大きな収穫だった。

丸田さんは、大学院をはじめ出された
後、神学校で学んだ時期もありながら、
やはり「世間知らずな自分」というコン
プレックスを払拭するために、野宿者支
援に没頭し、社会と向き合い始める。武
田さんは、新卒「正社員」というところ
までは「ルール」に乗ったかのように見
えたが、その会社で不当な未払い賃金請
求をたった一人で始めるところから社会
と闘うこととなった。それぞれ労働組合

運動に行き着く道のに違いはあるけれ
ど、その二人がフリーターユニオンで出
会い、遠くに同じ「夢」を見ながら、共
に切磋琢磨する今があることに、労働組
合運動への確信を強めることもできた。

この企画は、かつて「人と出会うシ
リーズ」と称して、身近な「闘う仲間」
を迎えてきたが、結成から10年を経て改
めて、仲間である「組合員と出会うシ
リーズ」として継続していくことと思っ
た。労働生存組合を掲げ、反資本主義を掲げ、
生きづらい社会をともに生きようとする
ものたちが、流動的に出入りし出会う場
奇蹟のような出会いから、必然の道が引
かれていることを刻み、伝えていく営み
としていきたい。フリーターユニオンに
辿り着くまでに、そして辿り着いてこそ、
だれにでもある足跡であり、だれもが伝
えるべきことがあるからだ。

今回、組合員である櫻庭氏の大学で学
生を前に語る場を設定されたことで、話
し手にとっては、より緊張感と達成感を

味わうこともでき、フリーターユニオン
の年末企画も充実した。また私自身、櫻
庭組合員の働く偏狭の地にある山口大学
まで足を運んだことも有意義であった。

通信には各自が年末企画や学生の前で
語ったことを振り返り、反応なども交え
た総括的内容しか掲載されていないのは
残念だが、当日、本人から語られた足跡
の数々は、強い憤りであったり、激しい
尊厳の傷つきであったり、そこからまた
立ち上がっていく過程で、さまざまな人
との出会いや気づきがあったことを、リ
アルに聞くことができた。その表情や声
から、切実に、仲間同士の信頼に基づい
た相互扶助によって成立してきた労働組
合運動の厚みを感じることができた。そ
の全貌については、わがフリーターユニ
オンに足を運んでいただくことでしか伝
えきれない。

(たけもりまき)

「支援」から「運動」へ

希望を持ちそれを言葉に

1、ホームレス支援

私自身の活動への参加は、方向性と動機の一つの面から説明ができます。まず方向性ですが、経済を勉強するなか格差や貧困の問題に関心が向いたことがあります（今思えば、どうしてお金儲けの方向に関心が向かなかったのかは思うのですが）。次に、動機の一部ですが、私には「世間知らずコンプレックス」がありました。「自分は世間知らずだ」「社会の現実を知らない」ということがコンプレックスとしてありました。それは27歳まで学生だったということが最大の要因でしょう。そのため社会の現実に触れてみたいという焦りにも似た気持が、20代半ばくらいから強くなってきました。また加えて、それまでずっと繭のような膜のような自分が包まれていて、なにか「現実」とずれているような、「現実」と出会えていないような感覚が物心ついたころからずっとあり、それは同時に自分に対する無力感や劣等感の源になり、

それが先に述べたようなコンプレックスを増幅させたということもあります。「だから社会の現実に触れてやろう、そのためには家も何もかも失って路上から放り出された状態の人たちの支援運動に関わったら、社会の現実に触れることができるのではないか」そんな思いがありました。

流石に自分がホームレスになる度胸はなかったところは、自分の限界だと思いますが、ともかくも以上のような二つの思いが相まって、ホームレス支援の運動へと向かうこととなり、支援団体に入りにするようになりました。支援団体がNPO法人化するとともに、その職員になってフルタイムでホームレスの支援活動に参加することになりました。言うなれば、ホームレス支援のプロフェッショナルです。それは、福岡もつと言えば全国的に見てもそれほど数は多くはないと思います。が、それだけに、世間からも、そして団体のメンバーからも「まともな仕事」と思われず、

「世間知らずコンプレックス」を払拭するとは出来ませんでした。だから、「職業は？」と聞かれたときには「無職みたいなもんですよ」と自嘲気味に答えることが常でした。ホームレス支援の活動を通して、生活保護・介護保険・社会福祉制度、不動産業界、そして労働問題、また、依存症や精神疾患の問題等、様々な事柄に触れて、役所の窓口や不動産業者とそれなりに涉りあってきたにもかかわらず、です。

結局、そのようなコンプレックスを払拭しきれたのは、30才過ぎて介護会社に「就職」して初めて勤め人になってからであり、改めてそれまでの自分の環境と会社員としての環境を比較した時であり、自分のやってきたことは「それなりにそれなりのことだったのだ」ということが分かった時でした。

2、支援から運動へ

専従職員として活動をするなか、持ち掛けられた相談をそれなりに解決したりもしていったのですが、やっているうちにこれは運動ではないなという気がしてきました。何か新しいものができるというよりも、野宿者とそうでない人あるいは「元」野宿者とそうでない人の境界線を消すことはできないと思われ、支援／被支援という関係乗り越えるところこそ何かがあるのではないかと思っていたけれども、あまりその考え方は団体においても受け入れられませんでした。

それから、野宿者の支援活動をしていて気が付いたことは、彼らが野宿をする前というのは、非常に不安定な雇用状態にあったということでした。そして、ちょうど同じ時期に「派遣」の仕事が増えていく状況があり、また、非正規雇用の数が増加していく状況で、両者がかぶって見えました。野宿へと至る過程というのが、終身雇用のように一つの会社に新卒から勤め上げていくのではなく、仕事を転々としていくこと

で結果として高齢になり仕事を失っていくというパターンが、両者の間に共通するという認識を持つようになったのです。それは建設業かそれとも物流や製造業かの業種の違いこそあれ、上記のパターンは共通していると思いました。そういう意味では、日本型雇用（いわゆる終身雇用の年功序列の雇用）を信じることは出来なかったし、一徳総中流というものも幻想だったと思います。

野宿者支援活動を続けていく中で、これからの先行きはもっと悲観的なモノ、つまり現在「派遣」で働いているような人たちがホームレス状態になるという予測がありました。それだからこそ、経済社会の在り方を問うような形で運動を進めていかねばならないと、特に新自由主義的な経済改革の在り方を、ひいては資本主義の在り方そのものを問題にしなければならぬと、そのような認識から労働運動をしていかねばならないと考えるようになりました。経済社会の基本は資本と賃金労働の関係から成り立っており、そこを問題にするのは労働運動しかないからです。そしてまた、非正規雇用労働者というのはほぼ既成の労働組合に組織されて

いないし、そういう人を相手にしてこなかったという経緯がありましたので、「じゃあ、非正規雇用の人の労働組合を自分たちで作ろう」と考えて、フリーターユニオンを結成したという次第です。

それから十年近くが経過したわけですが、では、当初の志の「資本対労働」を軸としつつ社会を変革し、その主体たる「支援／被支援」という関係を越えた新たな集团的主体を形成しているのか、ということについては残念ながら力及ばずという所ではあります。でも、そのところはあきらめたくはない。希望を持ち、それを言葉にして実現することを志向すること、それを捨ててしまったら運動ではなくなってしまうから。

「私たちは、人々がしばしば何かを欲するのに、本当にはそれを望もうとしないことを知っています。どうか、あなたが欲するものを望むことを恐れないでください」（二〇一一年一月九日スラヴォイ・ジジエクのスピーチ／芦原省一訳）

丸田 弘篤

労働組合って何?というあなたへ

FUFに加入して、6年が経過している。

今はフリーランスという立場で、いわゆる賃労働からは解放されている状態が続いている。(生産活動からは解放されていない)

今回は組合員の櫻庭先生のご紹介で、山口大学の講義の1コマを使わせていただいて、「机上の勉強に辟易した大学生向けに、法律を実生活で使うことについて」という題材を元に講義をするようになった。

講義の内容は後述するのだが、私の大学卒業後から現在に至るまでの人生の振り返りと、ポイントポイントで労働法などを活用してきた、という内容である。

私は正社員で働いてきた会社とは、必ず法的な何か要求をしているのだが、一般人であってもこの内容に諸手を挙げて賛同してくれる人は少ないにもかかわらず、大学生に対して伝わるわけではないのではないかと思っていた。

結論としては、実生活上で労働法を使うというのは非常に大事で、大学卒業後に就職したときに

労働法を意識しなくても生きていける人はいるが、その反面、残業代やパワハラセクハラなどの問題に直面する人間は「必ず」出てくる、という話をした。この講義でこのところだけはどうしても伝えなかったのだが、後日のアンケートではここがあまり伝わっていないように思えた。

かつて私もそうであったが、「自分は大丈夫」という考えがものすごく根強い。後日回収した講義のアンケートを見ても、「公務員志望だから残業代の話をされても意味がない」というような内容もあった。公務員でも実際に辞める人間は多いし、例えば警察はパワハラのデパートですし、セクハラもあるし、犯罪行為をしているわけではないのに解雇されたり、ということとは実際に起っているのにも関わらず。

だが、この講義をしたことで、将来こういう問題に直面した時に、思い出してもらえたらどうかっていう淡い期待をしている。

他、「石の上にも三年」というが正しいわけではないということが分かった」と書いてくれた学生がいたことが非常に良かった。私は自分なり

の考えで、何も考えずに「3年はどんなことがあっても絶対に続ける」という愚かな真似はしなかった。人生は有限であり、1年でも2年でも口をすべるといことは非常にもったいない。もちろん1年や2年しか続けてない中でも、ほかの人間よりも多くのことを吸収しようという意識を持ち続けていたことは事実である。

残業代が出ない、上司が嫌がらせをしてくる、こういうような会社は早めに見切りをつけて辞めてしまえばいい。団体交渉での解決でもいいが、そうこうしているうちに、結局生産活動についてはかなりの卓越性を得ることが出来た。30歳になるまで気づかなかったが、どうやら商売の才能は少しばかりあったらしい。30代前半にて、一般の企業が行っている活動(商品企画、営業、サービスの提供、集金)を自分で全て行うことが出来るようになった。

組合の争議活動も、数々の失敗を乗り越え、ある程度自分のスタイルを確立できるようになった。

(一)

現在の自営業がずっと続けばいいのだが、そうなる確証は一切ない。廃業してしまった時には、再び賃労働者として働くことになる。その時には必ずや職場闘争を厭わずに積極的に会社と交渉していきたい。

私の現在のの人生目標は、「周りの環境に影響をされない状態を作る」ということになっている。仕事においては、大口の取引先を確保しつつ、取引がなくなってもいいように、小口の取引先を増やす努力をしている。

もし外部環境が原因で廃業したとして、賃労働者として働く場合も、会社が残業代を払ってくれないとか、上司が嫌な奴だとか、そういうことを左右されずに、知恵を駆使して残業代を払わせ、上司を団体交渉に引きずり出して交渉していく、ということをしていきたいと思っている。

そして最終目標としてどんなに周りの環境が悪化しても、「心」の平静「心」これを目指すことが本心に正しいことなのかどうかはわからないが、を保つことが出来るような方向に間違いなく向かっていけるのである。

講義タイトル

「20代で開業した若手社労士が語る、損を

しない労働法の理論と実践」以下概要

私は今年32歳になる。

リーマンショック前後で大学卒業を迎え、当時は空前の売り手市場と呼ばれた時代であった。学生時代はアルバイトはしていたが、本格的に賃労働者として働きたのがここだった。ここまではしールの上を歩んできた。新卒で入社した会社で、賃金未払いの問題が発生し、ここで何か目が醒めるようなことになったのである。そこから労働基準法を初めて知ることになる。

2社目は残業代が出ない会社だったので、いっそ辞めて自分の力で飯を食っていきなさいという漠然とした目標が出来た。そこから社労士を目指し、運良く合格した。

社労士事務所働くが、そこでタイミングよく揉め事が起こり、自営業として独立するきっかけができた。仕事の時代を経て、現在ではフリーランスとして、多忙な日々を送りながらも賃労働

の煩わしさから解放された。

現在の私の主な活動内容は、労働組合活動と、社労士の活動である。労働組合の活動を続ける理由は、①勉強のため②助けられたお礼の2つ。団体交渉などの争議活動は、知識よりもスキルが重要であるから、実践を通じてしか得られないスキルを得ることが出来た。社労士の仕事は、行政に対する書類提出代行や、助成金の提案、法律関係の相談など。一見相反する活動であるかのように見えるが、両方を通じて見えてくるものもある。

理論と実践というタイトルなので、実際に自分が労働組合を通じて残業代を請求した事を紹介した。証拠などももちろん大事なのだが、結局は争議に至るまでの自分との闘いが重要で、そこを乗り越えるまでが大変だということ。

大学生に向けてのメッセージは、労働法にかかわらず生きていく人間もいると思うが、どうしても賃労働になじみず、躓いたりする人間が出てくる。そういったときに、今日話した内容を少しでも思い出してほしい。職場をやめるという選択肢だけではなく、労働争議を通じて解決することも選択肢としてあるんだ。

武田啓詩

山口大学まで2人の講演を聴きに行ったノリスケの感想

【丸田組合員の講演を聴いて】

学生時代から紆余曲折しながら、自分の働いたことないコンプレックスと向き合い、自営を始めるまでのストーリーを学生がどのように受け止めたかわかりませんが、金儲けや出世する道を選ばないで生きているところ、魂と一致した生き方を貫いている点が非常に印象的で惹かれました。

自営を始めるにあたって、人に使われる気苦労から、どうせ苦労するなら自分で苦労した方が良く、決断したところに勇気と潔さを感じた。

講義の後半には、『おわりに一生生きていくためには大学の勉強は「役に立つ」という大学の学問を肯定したところは、大学に行っていない私でも、私だから、納得できました。特に役に立つとはどういうことかは、文献を読みこなすような読解力や理解力、自分の考えをまとめる思考力、文章力が身につけるといことです。具体的にはレポートを書くという作業、論文を書くという作業が実務に「役立っています」と説明されました。

『井とめめならメタな言い方になります。が、学ぶといつことを「学ぶ」、理解することを「理解する」といふことそのような訓練、大学の勉強は「役に立ちます」』と締めくくっています。

※理解するとは、会社の流れをつかむ→根拠をつかむ→会社でやっていることの意味がわかる。→動きが変わる。

個人的にわからない点は、とても哲学的な今風？な、このメタな言い方という言葉が理解できなかったところ。 (笑)

最後に丸田先生の生き方から学ぶことで、困った時が飛躍のチャンス、知識や経験がなくても問題を解決するための思考力や突破力が大切だと思いました。

丸田先生、寒い中お疲れ様でした。

【武田組合員の講演を聴いて】

学生時代の就職活動の話や就職、退職、開業する現在に至るまでの人生のお話を、人生グワフを使って説明されたのがわかりやすかった。

武田先生の闘いで、残業代を自分で請求しようとした理由は、「正当な対価を得る②社会正義③自分が正しいという確証を得る」といったことのために闘ったという点が共感できました。

労働組合の有効性の説明

個人では限界があること、例えばタイムカードの請求を個人でも得られなかったものが組合で請求したらすぐに提出してもらえた点や団体交渉においては、本人は胃が痛くなったり、帰らなくなっても、相手(どんなパワハラをしている人も社長も)は、おとなしくなる。組合に入る前は、自分の権利を主張するだけで非常に怖かった。等、その時の気持ちや感想を素直に話されていました。

自営を始めてからは、まず先にGIVEが大切で、TAKEだけでは成功しない。今、社労士として独立してやっていけるのは、このGIVEに経費を考えずに一生懸命にした結果現在があり、アルバイトを掛け持ちしなくても事務所を営んでいるようになったこと、いかにGIVEが大切かを説明されました。

講義の後半には、会社に就職したら自分で「ントロールすることが難しい運の要素があること、や困ったときには、相談できる組合があること、合同労組やフリーターユニオンのことを紹介していただきました。

最後に質問タイムでは、学生ではないが、社会学の学者の先生から武田先生に社会保険労務士の役割の質問と労働者の権利を主張する組合のことを紹介されたところがよかったです。感想がありました。

私が講義で感動したのは、組合活動をするのは自分が助けられたおかげと勉強のため、決して人助けのためにやっているのではないから解決後に組合を辞めても怒りはしないが相互扶助がとても大切なこと、自分の顔を出して闘うことが大切ですよという点です。またこれから社会に出る学生に組合というところがあることを頭の片隅に置いてもらうことが出来たなら本当によかったです。

武田先生、寒い中お疲れ様でした。

年末街頭行動も完遂

働くこと、学ぶことへの疑問を労働組合運動へ

昨年12月23日に街頭行動に参加してみて、外はいつも以上に寒かったが、街頭で歩いている人は比較的多かったです。労働組合に参加して10年ほどになり、チラシにティッシュを入れる作業が地味だけど、やってきて良かったと思いました。内職みたいな感じですが、他の組合員との共同作業は、日ごろなかなかできないのでこれからも続けていきたいです。最初はだれでも、街頭行動で歩いている人に声をかけるのは緊張するし、歩いている集団に組合活動と呼びかけるのは、なんだかんで抵抗はありました。

組合活動で労働組合に入る人には、それぞれ理由があると思います。自分は、仕事や勉強、労働に疑問がありました。働くこと、勉強すること、自立することに疑問があったので、組合活動に参加した理由を問われると、社会のルールといったものに疑問があるからという理由です。労働については、「働く意味」とか「目的」とかいろいろと考える部分があると思いますが、少なくとも自分には世間でいわれるようなものはないです。自己啓発本やセミナーなどが流行っていますが、それに頼っても自分を根本から変えるものがあったからです。

組合に加入して、街頭行動で今は抵抗なくいろいろと街で歩いている人に声をかけてチラシや

ティッシュを受け取って貰えるのは良かったと思えました。ただ、チラシやティッシュを受け取って貰えるのはありがたいですが、なかなか組合まで足を運んだり、電話での相談がたくさんは来ないのは、組合としての認知活動がまだまだ足りていないのかなと思いました。今後の課題ですが、街頭行動や組合活動を充実するためにどうするかなのかなか学習会や定例会で考えていければと思います。

(見谷 元)

無題

12月23日は、自分にとって久しぶりの街頭行動とピラ配り。その日、天神の街は多くの人々が行き交っていた。イルミネーションの灯りが輝き、シングルベルの歌が聞こえる。

何かを忘れるように、灯りと歌に身を任す群れ。ディスプレイの訳ではない。身を任すように規定されているのを知っている。とれだけ身を任せられるか!?!という競争かもしれない(最近、イベント!イベント!という言葉が行き交うのがやたら増えたくて思いません!?!)。またそれは、ただの一面であって、明治のある小説家(今年は明治維新から150年らしいが、その1500年とは自分たちにとってどういう歴史なのだろう

か!?!。の言葉を借りれば、「香気と見える人々も、心の底を叩いて見ると、どこか悲しい音

がする。「かもしれない。

それぞれの悲しい音を聞こえなくさせるものは何なのか!?!それぞれの悲しい音をかき消そうとするものは何なのか!?!この街は、それぞれの小さな音が響き合っているだろうか!?!天神ビッグバンという大きな音だけが聞こえないだろうか!?!。大きな音だけが響く街に誇りも自信も自身も持てはしない。それぞれの寂しさや虚しさや悲しさを埋めることは出来ない。役割は、通行人が観光客かお客様なんて御免だ。

ただ自分たちは、ここに生きている!?!という音をこの街で響かせたい。その音は、反何々でもなくテーマもなく無題かもしれない。でもそれぞれの中に確かにある響きなければ収まらない音。まだ出会っていない小さな音と共に響かせたい。そついつ「政治」を狂おしく求めたい。

23日に配ったピラに金子光晴さんの言葉があります。最後に金子光晴さんの言葉で締めます。

「まずしい幸福に有頂天になっているように見える人たちの心の底には、やはり空洞が空いているのだ。だから、その幸福は、個人的で、排他的で、不安定で、はかなく絶望的で、へんにがつがつとみえる。」

(内野端樹)

※街頭行動で配布したピラの内容は次頁※

勇気をともに創りたい

寂しきの歌は、交差しない。空洞は、交差しない。

季節のせいではない。

「寂しきの歌(金子光晴)」が聞こえる。

ずうっとずうっと聞こえている。

いつから聞こえ出したか？ 分からない。

空洞があいている。ずうっとずうっとあいている。

いつからあき出したか？ 分からない。

巨大な流れが、一体化を求めようとする。

巨大な流れが、競争心を煽ろうとする。

巨大な流れが、優越感を持たせようとする。

巨大な流れが、劣等感を植えつけようとする。

巨大な流れが、排他的に導こうとする。

巨大な流れが、私の寂しきの歌・私の空洞を呑み込もうとする。

巨大な流れが、あなたの寂しきの歌・あなたの空洞を呑み込もうとする。

とする。

寂しきの歌、空洞が変わっていく。

寂しきの歌をかき消す術はない。答えもない。道もない。

空洞を埋める術はない。答えもない。道もない。劇的なモノは、

何一つない。

自己の内側の声をただ聞くしかない。

一つ一つじっくりと。躊躇いながら、戸惑いながら。

垢にまみえた言葉を使うなら、それを勇気と呼ぶのではないだ

ろうか!?

生きるための勇気。生きていく勇気。

f u f は、あなたに呼びかける。

その勇気を共に創りたい。

私たちの生きること巨大な流れに預けない勇気。

私たちの生きること巨大な流れで誤魔化さない勇気。

私たちの生きること巨大な流れで紛らわさない勇気。

その勇気が、今ここで、私たちの歌を響かせさせることになるのか

もしれない。

まだ聞こえない歌を。

強い、強いぞ、労組パワー【争議解決報告】

組合員みなで一軒落着

今回、ほぼ納得のゆく内容で解決、決着しましたことを御報告いたしますとともに、組合員の皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

回交は計4回実施される回までは条件は出ましたが、争点については平行線では決着には十分な時間が掛かると思いましたし、またその覚悟も充分でした。私には時間に余裕がありましたし、このような交渉の場は嫌いではなく相当長期間でも対応するつもりでした（組合員の方には迷惑でしょうが）。交渉は一種のストレス解消だったかもです。自分の思っていることを思い切り言えましたし、思わず大声を出し発散していたのでしょうね。相手のあまりな虚偽説明に、ついそうなったのですがそれがモチベーションの持続につながったとも言えます。だがそれは反省点でもありません。交渉事は興奮して冷静でないままだと肝心の指摘ができないことがあります。交渉終了後、あの時ここを指摘すれば良かったと後悔すること頻り、要注意です。

4回目の交渉で、突然条件が出されそれが解決に

つながるのですが、今から考えると回交前の定例会議で、当組合の争議権の実施を打ち出した方がよいという意見があり、それを事前に文書で提出したところが効果に繋がったと思います。当該会社は入札業者として成立っている会社なので、もしこの争議でその資格が問われた場合、会社の業務そのものがないなる恐れがあります。それを懸念したのではないかと推察します。この争議権は組合の強みそのものではないかと思えます。私は、相手の主張が全くの虚偽の説明でありその矛盾点がどこかにないかを探しそれを手掛かりに追い詰めるという裁判手法みたいに躍起になっていましたが、なかなかこれを見つけて出すのは難でした（一部成功したところもありますが）。そのような状況において、組合の争議権は随分有効だと感じた次第です。相手の嫌がることをやるということですが、その権利行使には随分なエネルギーが必要です。モチベーションをどう保つか、「皆で一緒に」ということが大きい意味があるのでしよう。

それと相手は虚偽説明するので、交渉事には録音すること、それが相手の嘘を瞬間に暴くので難ではありますが今後の参考です。私の場合はほとんど使うことは考えられませんが、余談ですが車を

もっておられる方はドライブレコーダーを取り付けて下さい。車両事故の場合絶対の証拠になります。ちょっと心残りは、この会社のような条件での雇い方が、社会として許されるのかを確認したかったのですが、これは裁判でもやらない限りは無理と諦めました。

さて一軒落着いたわけですが、この結果は一人でやれたかと言われたら「NO」と言わざるを得ないでしょう。皆で交渉したから相手への圧力もあったでしょうし、弁護士相手にも臆することなくぶつかっていけ、モチベーションも維持できたのだと考えます。また定例会議等で皆様の人となりが解り、尊敬の念を持ったり親しみを覚えたりして、「コミュニケーションが計れて楽しかったです。それも力の一因だとも思います。組合が今後同じような境遇の人達への支援の大きな力となって頂くことを期待いたします。多くの方にこのような組合があることを知って貰いたいと願い、私も微力でもその一助となるよう努力したいと思っています。高齢の私には皆様方と話をするだけでもボケ防止に良いですね。今後ともよろしく願います。

（田中 升）

◆通信誌購読料及び活動へのカンパのお願い◆



- 年間の通信誌費とともに、fufの活動に賛同のカンパなどしていただけたら、ありがたいです。通信への感想なども是非お願いします。楽しみにお待ちしております。

- 通信費： 年間一口1000円

- 振込口座： ゆうちょ銀行
名称： フリーターユニオン福岡
口座番号： 01710-4-92028

- 有期雇用でも、正規社員でも、ニートでもヒキコモリでも組合員になれます。組合費はだれでも月2000円。

- 働くこと、働いていけることで悩んでいる人、いつでもご連絡ください。

- 第2日曜日は午前9時から、第4金曜日は午後7時から事務所で定例会議です。お気軽にお立ち寄りください。

- 電話、メール、いつでも相談や加入のことなど受けつけています。電話番号やメールアドレスなど、より詳しい情報については、フリーターユニオン福岡（fuf）のブログやホームページをご覧ください。
blog: <http://fufukuoka.blog.so-net.ne.jp/>
HP: <http://fufukuoka.web.fc2.com/>

奥付：2018年2月11日発行